

大日本帝國憲法

内閣官報局

官報

號外

明治三十二年二月十一日

月曜日

218-4	第十類
三二	一冊
函	架

国立公文書館	
分類	
排架番号	2 A
	34-1
	① 1460

1.461

(25)

告文

皇朕レ臨ミ畏ミ

皇祖

皇宗ノ神靈ニ語ケ白サク皇朕レ天壤無窮ノ宏謀ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無シ願ミルニ世局ノ進運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ

宜ク

皇祖

皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ内ハ以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益國家ノ丕基ヲ鞏固ニシハ洲民生ノ慶福ヲ増進スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此レ皆

皇祖

皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラス而シテ朕カ躬ニ逮テ時ト俱ニ舉行スルコトヲ得ルハ洵ニ

皇祖

皇宗及我カ

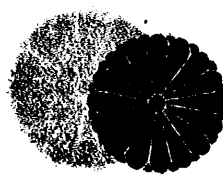
皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ

皇祖

皇宗及

皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ此ノ憲章ヲ履行シテ億ヲサラムコトヲ誓フ庶幾クハ

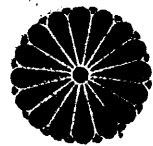
神靈此レヲ鑒ミタマヘ



憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス

フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威德ト竝ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ獎順シ相與ニ和衷協同シ益我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ責擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ



朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ愚撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其ノ懿德良能ヲ發達セシムコトヲ願ヒ又其ノ翼賛ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十四日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム

國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愼ラサルヘシ

朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宜旨ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有効ナラシムルノ期トスヘシ將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼續ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ

朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- | | |
|--------|--------|
| 内閣總理大臣 | 伯爵黑田清隆 |
| 樞密院議長 | 伯爵伊藤博文 |
| 外務大臣 | 伯爵大隈重信 |
| 海軍大臣 | 伯爵西鄉從道 |
| 農商務大臣 | 伯爵井上馨 |
| 司法大臣 | 伯爵山田顯義 |

大藏大臣兼内務大臣 伯爵松方正義
陸軍大臣 伯爵大山 巖
文部大臣 子爵森 有禮
逓信大臣 子爵根本武揚

大日本帝國憲法

第一章 天皇

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス
第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス
第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ
第五條 天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ
第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス
第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス
第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス
此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ
第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス
第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其ノ條項ニ依ル
第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス
第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム
第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

第二章 臣民權利義務

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス
第十五條 戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第十六條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス
第十七條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス
第十八條 攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ
第十九條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル
第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス
第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス
第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス
第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁密問處罰ヲ受クルコトナシ
第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルコトナシ
第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラルコトナシ
第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サルコトナシ
第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルコトナシ
第二十八條 公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル
第二十九條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス
第三十條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス
第三十一條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ禮讓ヲ爲スコトヲ得
第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ
第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勳任セラレタル議員ヲ以テ組織ス
第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス
第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス
第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス
第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各法律案ヲ提出スルコトヲ得
第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス
第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス
第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス
第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ
第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ
臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル
第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ
衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ
第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ
第四十六條 兩議院ハ各其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス
第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得
第四十九條 兩議院ハ各天皇ニ上奏スルコトヲ得
第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得
第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲ケルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得
第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ
第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラルコト

ナシ
第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得
第四章 國務大臣及樞密顧問
第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス
凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス
第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス
第五章 司法
第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ
裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス
裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラルコトナシ
懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得
第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス
第六章 會計
第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス
國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ
第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス
第六十四條 國家ノ歲入歳出ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ
豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス
第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

六

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協賛ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘカヲサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各其ノ議員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用井タルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ之ヲ施行ス

歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

官報 號外

明治二十二年二月十一日 月曜日 内閣官報局

○達

宮内省第二號

皇族列次ハ實系ノ遠近ニ從ヒ 皇位繼承ノ順序ニ依ル但シ親王敎品以下アリシ者ニ限リ特殊ノ席次ヲ以テ一般ノ列次左ノ通定ム

- 親仁親王
- 光親王
- 彰仁親王
- 貞愛親王
- 朝彦親王
- 能久親王
- 成仁親王
- 德仁親王
- 依仁親王
- 親仁王
- 邦芳王
- 博恭王
- 親賢王
- 成久王
- 恒久王
- 輝久王
- 邦彦王
- 邦彦王
- 守正王
- 多喜王

○官廷錄事

明治二十二年二月十一日

奉 勅

○告文 今十一日午前第九時御禮定ノ通御祭典行ハセラル 神鏡ヘノ告文ハ別紙ヲ以テ配布セラル

宮内大臣子爵土方久元

官報號外 明治二十二年二月十一日

勅令

朕憲法ヲ發布スルニ當リ此盛典ヲ表シ恩澤ヲ施サンカ爲ニ特ニ命シテ左ノ條項ニ依リ大敕ヲ行ハシム

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣	伯爵黑田清隆
樞密院議長	伯爵伊藤博文
外務大臣	伯爵大隈重信
海軍大臣	伯爵西郷從道
農商務大臣	伯爵井上馨
司法大臣	伯爵山田顯義
大藏大臣兼内務大臣	伯爵松方正義
陸軍大臣	伯爵大山巖
文部大臣	伯爵森有禮
逓信大臣	伯爵板本武揚

勅令第十二號

第一條 本令發布以前ニ於テ左ノ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ赦免ス

一 刑法第一百七條第百十九條ノ罪

二 刑法第二百一十一條第百二十三條第百二十五條第百二十六條第百二十七條ノ罪

三 刑法第二百二十九條第百三十條第百三十一條第百三十二條第百三十三條第百三十四條ノ罪

官報號外 明治二十二年二月十一日

- 四 刑法第三百三十六條第三百三十七條第三百三十八條ノ罪
- 五 刑法第四百一十一條ノ罪
- 六 陸軍刑法第五十條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條
- 七 陸軍刑法第六十六條第六十七條ノ罪
- 八 陸軍刑法第六十九條第七十條第七十一條ノ罪
- 九 陸軍刑法第九十三條第九十四條ノ罪
- 十 陸軍刑法第九十九條第十條ノ罪
- 十一 海軍刑法第五十六條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條
- 十二 海軍刑法第八十六條第八十七條ノ罪
- 十三 海軍刑法第一百條ノ罪
- 十四 海軍刑法第一百零一條ノ罪
- 十五 海軍刑法第一百零二條ノ罪
- 十六 保安條例ノ罪
- 十七 保安條例ノ罪
- 十八 治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ爆發物取締規則ヲ犯スル罪
- 十九 新聞紙條例第二十一條第二十二條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條
- 二十 出版條例第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條
- 第二條 舊法ニ依リ處斷セラレタル罪ト雖モ其性質前條ニ記載シタル罪ト同一ナル者ハ之ヲ赦免ス
- 第三條 舊法ニ依リ處斷セラレタル罪ト雖モ其性質前條ニ記載シタル罪ト同一ナル者ハ之ヲ赦免ス
- 第四條 赦免ヲ得ルト雖モ既ニ徵收シタル罰金料及ヒ沒收シタル物件ハ還付セス

陸軍省訓令第二號

勅令第十二號ニ依リ施行手續相定候條右手續ニ據リ施行ス可シ

明治二十二年二月十一日

陸軍大臣伯爵大山巖

各師團及屬府縣 陸軍省

大赦施行手續

- 第一條 勅令第十二號第一條ニ記載スル罪ヲ犯シタル者ハ既ニ判決ヲ經タルト否ト問ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否ト別ニ別ニ總テ赦免ヲ得ル者トス
- 第二條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付テ刑ノ宣告ヲ受ケ其執行ヲ終ヘサル者ハ既ニ判決ヲ經タルト否ト問ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否ト別ニ別ニ總テ赦免ヲ得ル者トス
- 第三條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付テ刑ノ宣告ヲ受ケ其執行ヲ終ヘサル者ハ既ニ判決ヲ經タルト否ト問ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否ト別ニ別ニ總テ赦免ヲ得ル者トス
- 第四條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付テ刑ノ宣告ヲ受ケ其執行ヲ終ヘサル者ハ既ニ判決ヲ經タルト否ト問ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否ト別ニ別ニ總テ赦免ヲ得ル者トス
- 第五條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付テ刑ノ宣告ヲ受ケ其執行ヲ終ヘサル者ハ既ニ判決ヲ經タルト否ト問ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否ト別ニ別ニ總テ赦免ヲ得ル者トス
- 第六條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付テ刑ノ宣告ヲ受ケ其執行ヲ終ヘサル者ハ既ニ判決ヲ經タルト否ト問ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否ト別ニ別ニ總テ赦免ヲ得ル者トス
- 第七條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付テ刑ノ宣告ヲ受ケ其執行ヲ終ヘサル者ハ既ニ判決ヲ經タルト否ト問ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否ト別ニ別ニ總テ赦免ヲ得ル者トス
- 第八條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付テ刑ノ宣告ヲ受ケ其執行ヲ終ヘサル者ハ既ニ判決ヲ經タルト否ト問ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否ト別ニ別ニ總テ赦免ヲ得ル者トス
- 第九條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付テ刑ノ宣告ヲ受ケ其執行ヲ終ヘサル者ハ既ニ判決ヲ經タルト否ト問ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否ト別ニ別ニ總テ赦免ヲ得ル者トス
- 第十條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付テ刑ノ宣告ヲ受ケ其執行ヲ終ヘサル者ハ既ニ判決ヲ經タルト否ト問ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否ト別ニ別ニ總テ赦免ヲ得ル者トス

官報號外 明治二十二年二月十一日

前項ノ場合ニ於テ更ニ執行スヘキ刑罰金額判宣告書ニ疑點アルモノハ主
理訴訟書類及ビ例證等ヲ調査シ司令官官ノ認可ヲ得テ刑罰金額ヲ定ム可シ
第九條 勅令第十二號ニ照シテ安ヲ妨害スルノ目的ニ出テ若クハ政治ニ關ス
ル意思ニ出テタル等ノ區別ヲ審辨スヘキ犯罪ニ付テハ主理執行シタル新聞
紙又ハ出版シタル文書圖畫ノ性質其他裁判宣告書ニ記載シタル事實ノ模倣
ニ因リ之ヲ查定ス可シ
第十條 司令官官若クハ司令官大赦ノ執行ニ付疑議アルトキハ海軍大臣ニ具
狀シテ指揮ヲ請フ可シ
第十一條 前條ニ依リ大臣司令官官若クハ司令官ニ申報シ及ヒ司令官官司
令官官官ノ地ニ通知スルトキハ電報ヲ用ユ可シ但共事情ヲ悉クス能ハサル
モノハ此限ニ在ラス
第十二條 大赦執行ノ處分ヲ爲シタル者ハ横須賀鎮守府司令官官ニ申報ス可
シ司令官官ハ之ヲ海軍大臣ニ申報ス可シ
第十三條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ既ニ執行ヲ終リタル者ヨリ赦
免ヲ得タル旨ノ證明ヲ請フトキハ主理事實ヲ調査シ司令官官ノ認可ヲ得
明ヲ與フ可シ
司法省訓令第三號

本年勅令第十二號ヲ以テ大赦ノ備公布相成候ニ付テハ右施行方左ノ手續ニ從
フヘシ
明治二十二年二月十一日 司法大臣伯耆山田顯義

大赦施行手續

第一條 本年勅令第十二號ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ヲ犯シタル者ハ既ニ判決ヲ
經タルト否ト問ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否ト別ニ別ニ總テ赦免
ヲ得ル者トス
第二條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ其言渡未タ確定セサル者言渡確
定スルモ未タ其執行ニ著手セサル者及ヒ其執行中ニ係ル者ニ對シテハ原裁
判所ノ檢察官ヨリ速ニ赦免ヲ得タル旨ヲ通知シ在監中ノ者ハ之ヲ放免スヘ
第三條 赦免ニ依リ處罰セラルタル者若クハ赦免併科セラレタル者又
ハ刑罰限内再犯罪ヲ犯シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者赦免ヲ得タルニ因リ更ニ赦
免ヲ得サル罪ノ刑ヲ執行スヘキトキハ赦免ヲ得タル罪ニ付執行シタル刑ヲ
通算ス
若シ赦免併罰例ニ依リ處罰セラレタル者ノ裁判言渡ニ疑點アル者ハ該
ニ付刑罰金額ヲ示シ其額ノ罪アルトキハ檢察官ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁
判所ニ其說明ヲ請フヘシ
第四條 赦免ヲ得ヘキ囚人原裁判所ノ管轄地外ノ監獄ニ在ルトキハ典獄ヨリ
最近ノ始審裁判所(本署又ハ檢察官ニ通知スヘシ
通知ヲ受ケタル檢察官ハ第一條ノ處分ヲ爲スヘシ若シ該囚人ノ裁判言渡ニ
疑點アル者ハ該囚人ノ原裁判所ニ通知スヘシ

テハ其事件ヲ原裁判所ノ檢察官ニ送致スヘシ
通知ヲ受ケタル檢察官第二條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ原裁判所ノ檢
察官ニ通知スヘシ
第五條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付監獄又ハ特別監獄執行中ニ係ル者ハ執行地ノ警
察官ヨリ原裁判所ノ檢察官ニ通知スヘシ若シ其執行地原裁判所ノ管轄地外
ニ係ルトキハ最近ノ始審裁判所(本署又ハ檢察官ニ通知スヘシ
通知ヲ受ケタル檢察官ハ監獄又ハ特別監獄ヲ免スルノ手續ヲ爲スヘシ
第六條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付監獄又ハ公判中ニ係ル事件ニ付テハ檢察官(中ノ
事件ニ付テハ其上司ヲ受)ヨリ公訴ヲ拋棄スルノ手續ヲ爲スヘシ
第七條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ既ニ執行ヲ終リタル者ヨリ赦
免ヲ得タル旨ノ證明ヲ請フトキハ檢察官ニ於テ事實ヲ精査シ證明ヲ與フヘ
第八條 勅令第十二號第一條第十九項第二段及第二十項第二段ニ記載シタ
ル犯罪ニ付テハ檢察官ニ於テ發行シタル新聞紙又ハ出版シタル文書圖畫ノ
性質其他裁判宣告書ニ記載シタル事實ニ因リ政治ニ關スル意思ニ出タル者ナ
ルト否トヲ查定スヘシ
第九條 大赦ノ施行ニ付疑議アルトキハ檢察官ヨリ速ニ司法大臣ニ具狀シテ
指揮ヲ請フヘシ
第十條 大赦ノ施行ニ關スル處分ハ檢察官ヨリ速ニ司法大臣ニ報告スヘシ

告示

陸軍省告示第一號
勅令第十二號ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ宣告ヲ受ケ既ニ其執行ヲ終リ
タル者ニ對シテ赦免ヲ得タル旨ノ證明ヲ得タル者ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル
軍法官官ノ理事ニ申出テ陸軍裁判所若クハ軍團裁判所ニ於テ其宣告ヲ受ケタ
ル者ハ第一師團軍法官官ノ理事ニ申出ツ可シ
明治二十二年二月十一日 陸軍大臣伯耆大山巖
海軍省告示第三號
勅令第十二號ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ既ニ其執行ヲ終
執行ヲ終リタル者ニ對シテ赦免ヲ得タル旨ノ證明ヲ得タル者ハ刑ノ言渡ヲ爲シ
鎮守府軍法官官ノ主理ニ申出ツ可シ
明治二十二年二月十一日 海軍大臣伯耆西郷從道
司法省告示第二號
本年勅令第十二號ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ既ニ其執行ヲ終
リタル者ニ對シテ赦免ヲ得タル旨ノ證明ヲ得タル者ハ刑ノ言渡ヲ爲シ
タル者ハ該囚人ノ原裁判所ニ通知スヘシ
但明治十四年以前司法省佐賀縣九州其他ノ臨時裁判所ニ於テ處斷ヲ受ケ
タル者ハ大赦院事務官ニ申出ツヘシ

法律

朕樞密顧問官ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立ノ日ヨリ各本法ニ依リ施行スヘキ
コトヲ命ズ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

內閣總理大臣 伯爵黑田清隆
樞密院議長 伯爵伊藤博文
外務大臣 伯爵大隈重信
海軍大臣 伯爵西鄉從道
農商務大臣 伯爵井上馨
司法大臣 伯爵山田顯義
大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義
陸軍大臣 伯爵大山巖
文部大臣 伯爵森有禮
逓信大臣 伯爵子爵榎本武揚

法律第二號
議院法

第一章 帝國議會ノ召集成立及權限
第一條 帝國議會召集ノ勅令ハ衆議院ノ期日ヲ定メシメ之ヲ發布スヘシ

第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

第三條 衆議院ノ議長ハ其ノ議院ニ於テ各議員ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長ハ勅任シタルニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章 議長書記官及經費

第七條 各議院ノ議長副議長ハ各一員トス

第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ關位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條 議長ハ議會開會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ出席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラス

第十三條 各議院ニ於テ議長副議長ハ其ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十四條 各議院ニ於テ議長副議長ハ其ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條 各議院ノ議長副議長ハ其ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

第十七條 書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十八條 書記官ハ議事録及他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス

第十九條 書記官ハ外ニ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

第二十條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第二十一條 議長副議長及議員歳費

第二十二條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別

第二十三條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第二十四條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第二十五條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第二十六條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第二十七條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第二十八條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第二十九條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第三十條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第三十一條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第三十二條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第三十三條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第三十四條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第三十五條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第三十六條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第三十七條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第三十八條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第三十九條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第四十條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第四十一條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第四十二條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第四十三條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第四十四條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第四十五條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第四十六條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第四十七條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第四十八條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第四十九條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第五十條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第五十一條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第五十二條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第五十三條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第五十四條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第五十五條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第五十六條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第五十七條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第五十八條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第五十九條 各議院ノ議員ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

官報號外 明治二十二年二月十一日

第三十五條 帝國議會開會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 秘密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ

二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用井スシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條 秘密會議ハ執行スルコトヲ許サス

第八章 豫算案ノ議定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ贊成アルニ非サルハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ說明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラス

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ贊成者アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作リ贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サ、ルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

第五十二條 各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若シ之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各十人以上以下同數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取リ又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル議案ニ對シテハ更正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用井可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各一員ヲ互選シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章 請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作リ其ノ要領ヲ錄シ每週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用フヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用非政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用非ルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セズ

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ祕密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス

第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス

第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラル、ニ至ルマデハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格密查ニ關ル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

第十六章 請暇辭職及補闕

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請暇ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ內務大臣ニ通牒シ補闕選舉ヲ求ムヘシ

第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマデ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

第九十條 傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十一條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十二條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第九十三條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用非ルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十四條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章 懲罰

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ケ

懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

一 公開シタル議場ニ於テ譴責ス

二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム

三 一定ノ時間出席ヲ停止ス

四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ出席スルニ由リ若ハ請暇ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選舉法及附錄ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ帝國議會ヲ召集スルノ年ヨリ本法ニ依リ選舉ヲ施行セシムヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

內閣總理大臣	伯爵黑田清隆
樞密院議長	伯爵伊藤博文
外務大臣	伯爵大隈重信
海軍大臣	伯爵西鄉從道
農商務大臣	伯爵井上馨
司法大臣	伯爵山田顯義
大藏大臣兼內務大臣	伯爵松方正義
陸軍大臣	伯爵大山巖
文部大臣	伯爵森有禮
逓信大臣	伯爵樺本武揚

法律第三號

衆議院議員選舉法

第一章 選舉區畫

第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選舉區ニ於テ之ヲ選舉セシム其ノ選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ定員ハ此ノ法律

附錄ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ選舉區ノ選舉ヲ監督ス

第三條 一選舉區ニ選舉ハ郡長又ハ市長其ノ選舉長トナリ之ヲ管理ス

第四條 一市ノ域内ニ於テ數選舉區アルトキハ府縣知事ハ其ノ郡長又ハ市長ノ一人ヲ命シ選舉長タラシムヘシ

第五條 選舉ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第二章 選舉人ノ資格

第六條 選舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年滿二十五歲以上ノ者

第二 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住居スル者

第三 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第七條 家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其ノ財產ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス

第三章 被選人ノ資格

第八條 被選人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ選

舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タルヘシ

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第九條 官内官裁判官會計検査官收稅官及警察官ハ被選人タルコトヲ得

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被選人タルコトヲ得

第十一條 選舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ選舉區ニ於テ被選人タルコトヲ得

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ選舉セラレ當選ヲ承諾シタルトキハ其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス

第四章 選舉人及被選人ニ通ズル規定

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得

一 瘋癲白癡ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

七 選舉ニ關ル犯罪ニ由リ選舉權及被選舉權ノ停止中ノ者

第十五條 陸海軍軍人ハ現役中選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五章 選舉人名簿

第十八條 選舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日マテニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ

選舉人名簿ハ選舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月日納ムル所ノ直接國稅ノ總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ選舉長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲシテ其ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ選舉長ニ差出サシムヘシ

第三 郡市ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長其ノ市内ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二十條 選舉人其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ノ證狀ヲ得テ選舉人名簿調製ノ期日マテニ其ノ投票管理スル町村長又ハ市長若ハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條 選舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル選舉人名簿ヲ合シ一選舉區ヲ以テ一冊トシ選舉管理ノ

郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ備置キ其ノ副本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ

第二十二條 選舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一選舉區選舉人名簿ノ寫ヲ其ノ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縱覽セシムヘシ

第二十三條 凡テ選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證憑ヲ具ヘテ縱覽期限内ニ選舉長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得

縱覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第二十四條 選舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審查シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若シ其ノ申立ヲ以テ正當ナリト判定シタルトキハ直ニ其ノ人名ヲ記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第二十五條 選舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審查シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告

人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若シ誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ選舉長ノ判定ニ服セサルトキハ選舉長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十九條 選舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ據置クヘシ但シ裁判言渡書ニ依リ改正スヘキモノハ選舉長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取リタル時ヨリ二十四時内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第六章 選舉ノ期日及投票所

第三十條 選舉ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時選舉ノ期日ヲ定メ少クとも三十日以前ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長之ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ選舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設ケルニ足ラサルトキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及投票所並ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ輪ヲ設ケ其ノ一ハ町村長之ヲ管守シ其ノ一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 選舉人ハ選舉ノ當日本人自ラ投票所ニ至リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條 投票用紙ハ各府縣各一定ノ式ヲ用非選舉ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シテ捺印スヘシ

第三十九條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ツルトキハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票シシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條 二人以上ノ議員ヲ選舉スヘキ選舉區ニ於テハ連名投票ヲ用ウヘシ

第四十一條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ記載セラルヘキ裁判言渡書ヲ所

持シ選舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ
第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由ヲ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サズ

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ
第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ
第四十五條 一選舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ選舉ノ期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 選舉會

第四十六條 選舉會ハ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク
第四十七條 選舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ
第四十八條 選舉長ハ投票函送達ノ翌日選舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若シ投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載スヘシ
第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選舉長ハ選舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ
第五十條 各選舉區ノ選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得
第五十一條 左ニ掲クル投票ハ無効トス

一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判官渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
二 成規ノ用紙ヲ用非サルモノ
三 選舉人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ
四 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモノトス

五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選舉人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用非又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス
六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用非タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉委員ノ意見ヲ聞キ選舉長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス
第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ
第五十四條 一投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ未

尾ヨリ除却スヘシ

連名投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十六條 選舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ

第五十七條 選舉長ハ選舉明細書ヲ作り選舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ選舉委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

第九章 當選人

第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス

第五十九條 投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第六十條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十一條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十二條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十三條 一人ニシテ數選舉區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ選舉區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十四條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

第六十五條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當選ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ選舉ノ期日ヲ定メ其ノ選舉長ニ命シ再ヒ選舉ヲ行ハシムヘシ但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第六十六條 各選舉區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示シ玆ニ當選人ノ資格ヲ錄シテ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章 議員ノ任期及補選選舉
第六十六條 議員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後仍選舉ニ應スルコトヲ得
第六十七條 議員ノ議員アルニ由リ内務大臣ヨリ補選選舉ヲ開クヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ議員ノ選舉區ニ限リ臨時選舉ヲ行ヒ補選議員ヲ選舉セシムヘシ

第六十八條 補選議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル
第十一章 投票所取締

ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス
第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ投票所若ハ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス
第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選舉人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス
第一百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選舉權及被選舉權ヲ停止ス
第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第一百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス
第一百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス
第一百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示スヘシ
第十四章 補則
第一百六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ
第四條ノ場合ニ於テハ一選舉區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ
第一百七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ選クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ
立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ
此ノ場合ニ於ケル選舉明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ
第一百八條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル選舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ
第一百九條 町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戸長之ヲ掌ルヘシ
第二十條 選舉人名簿調製ノ初年ニ限り所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシ
第一百一十一條 北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ準行スルノ時ニ至ルマデ此ノ法律ヲ施行セス

衆議院議員選舉法附錄

東京府

議員總數十二人

第一區	第一區	一人
區一麻布町區		
區二赤坂區		
區三芝區		
區四三橋區		
區五日本橋區		
區六深川區		
區七淺草區		
區八神田區		
區九下谷區		
區十本郷區		
區十一小石川區		
區十二牛込區		
區十三谷區		

京都府

議員總數七人

第十區	第十區	一人
區一南多摩郡		
區二南豐島郡		
區三北豐島郡		
區四南足立郡		
區五南葛飾郡		
區六荏原郡		
區七伊豆七島郡		
區八上京區		
區九下京區		
區十愛宕郡		
區十一葛野郡		
區十二乙訓郡		
區十三久世郡		
區十四宇治郡		
區十五相模郡		
區十六喜樂郡		
區十七綴郡		

大阪府					區六第		區五第	
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	熊野	竹野	加佐	何鹿
西區	北東區	南區	住東成	島島	郡	郡	郡	郡
一	一	一	二	一	一	二		
人	人	人	人	人	人	人		
議員總數十人								

神奈川縣					區六第		區七第	
區一第	區九第	區八第	區七第		高安	河內	丹北	志紀
橫濱區	日根郡	泉大塚鳥郡	澁川郡	安宿部郡	郡	郡	郡	郡
一	一	一		一	一			
人	人	人		人	人			
議員總數七人								

兵庫縣					區六第		區五第	
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	足柄下	足柄上	津久井	高座
神戸區	有馬郡	北多摩郡	三浦郡	愛甲郡	郡	郡	郡	郡
一	一	二	一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人	人	人	人
議員總數十二人								

區九第					區八第		區七第	
朝養二七	美多	城含	赤穂	掛西	矢佐	粟用	神西	神東
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
二					二		一	
人					人		人	
區四第					區六第		區五第	
美明八	加古	加古	加古	加古	加古	加古	加古	加古
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
一					一		一	
人					人		人	
區三第					區二第		區一第	
北多摩郡	西多摩郡	南多摩郡	三浦郡	三浦郡	三浦郡	三浦郡	三浦郡	三浦郡
二					一		一	
人					人		人	
議員總數七人								

第十區 津名郡

一人

長崎縣

議員總數七人

第一區 長崎郡

二人

第二區 東彼杵郡

一人

第三區 南高來郡

一人

第四區 北松浦郡

一人

第五區 南松浦郡

一人

第六區 上縣郡

一人

新潟縣

議員總數十三人

第一區 新潟郡

一人

埼玉縣

議員總數八人

第一區 北足立郡

一人

第二區 入間郡

二人

第三區 南埼玉郡

二人

第四區 大里郡

二人

第五區 兒玉郡

一人

群馬縣

議員總數五人

第一區 東群馬郡

一人

第二區 北蒲原郡

二人

第三區 中蒲原郡

一人

第四區 南蒲原郡

一人

第五區 古志郡

二人

第六區 刈羽郡

一人

第七區 北魚沼郡

二人

第八區 中頸城郡

二人

第九區 加茂郡

一人

第二區 新田郡

一人

第三區 佐位郡

一人

第四區 群馬郡

一人

第五區 北甘樂郡

一人

千葉縣

議員總數九人

第一區 千葉郡

一人

第二區 東葛飾郡

二人

第三區 香取郡

一人

第四區 鹽谷郡 須賀郡	第三區 安足郡 梁利郡 田利郡	第二區 上都賀郡 下都賀郡 寒川郡	第一區 河內郡 芳賀郡	栃木縣	第六區 信太郡 河內郡 北相馬郡	第五區 筑波郡 新治郡	第四區 豐田郡 結城郡 岡田郡 西葛飾郡 猿島郡
一人	一人	二人	一人	議員總數五人	一人	一人	一人

區四第	區五第	區六第	區一第	區二第	區三第	區四第
飯野高	度會	阿拜	名古屋區	愛知郡	東春日井郡	丹羽郡
飯野高	英志郡	山田郡			西春日井郡	葉栗郡
多氣郡	北半婁郡	伊賀郡				
一人	二人	一人				

區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第	區八第	區九第	區十第	區十一第	靜岡縣
有安渡郡	北都留郡	東都留郡	南都留郡	中島郡	海東郡	海西郡	磐豆郡	額田郡	北設樂郡	南設樂郡	議員總數八人
一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人

區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第	山梨縣
中巨摩郡	富士郡	志太郡	榛原郡	周智郡	長敷郡	賀茂郡	議員總數三人
一人	一人	一人	一人	一人	一人	二人	一人

區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第	區八第	區九第	區十第	區十一第	滋賀縣
高島郡	甲賀郡	栗太郡	犬上郡	愛知郡	神崎郡	蒲生郡	西淺井郡	東淺井郡	伊香郡	坂田郡	議員總數五人
一人	一人	一人	一人	二人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人

區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第	長野縣
上水内郡	下高井郡	多石津郡	上石津郡	中島郡	大野郡	大田郡	議員總數八人
一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人

第三區	小縣郡	一人
第四區	西筑摩郡 東筑摩郡 南安曇郡 北安曇郡	二人
第五區	南佐久郡 北佐久郡	一人
第六區	上伊那郡 諏訪郡	一人
第七區	下伊那郡	一人
官城縣	第一區 仙臺郡 第二區 柴田郡 第三區 加美郡 第四區 志田郡 第五區 遠田郡	一人 一人 一人 一人 一人

議員總數五人

巖手縣

第一區	北巖手郡 南巖手郡	一人
第二區	東閉伊郡 中閉伊郡 北閉伊郡 南閉伊郡 北九戸郡 南九戸郡	一人
第三區	東和賀郡 西和賀郡 南閉伊郡	一人
第四區	江刺郡 膽澤郡 氣仙郡	一人
第五區	西磐井郡 東磐井郡	一人
青森縣	第一區 東津輕郡 第二區 上北郡 第三區 下北郡 第四區 北津輕郡 第五區 南津輕郡	二人 一人 一人 一人 一人

議員總數五人

山形縣

第一區	南村山郡 東村山郡 西村山郡	二人
第二區	東置賜郡 南置賜郡 西置賜郡	一人
第三區	飽海郡 西田川郡 東田川郡	二人
第四區	最上郡 北村山郡	一人
秋田縣	第一區 南秋田郡	一人
第二區	山本郡 北秋田郡	一人
第三區	河邊郡 由利郡	一人
第四區	仙北郡 平鹿郡 雄勝郡	二人

議員總數六人

議員總數五人

福島縣

第一區	信夫郡	一人
第二區	安積郡	一人
第三區	田村郡 白河郡 西白河郡 石川郡	二人
第四區	南會津郡 北會津郡 大沼郡 河沼郡	二人
第五區	磐前郡 磐城郡 榎葉郡 標葉郡 宇都郡	一人
第六區	本吉郡 鹿島郡 桃生郡	一人
第七區	登米郡 原郡	一人

議員總數七人

廣島縣

議員總數十人

區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第	區八第
廣安區	佐伯郡	沼田郡 高田郡 官田郡 山縣郡	高田郡 大田郡 三谷郡 三谷郡	加茂郡	豐田郡	御調郡 世羅郡	深津郡 沼限郡 安那郡
二人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人

德島縣

議員總數五人

區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第
名東郡 勝浦郡	那賀郡 海部郡	阿波郡 名波郡 麻植郡	板野郡	美馬郡 三好郡	香山郡 第一山郡 小豆郡
一人	一人	一人	一人	一人	一人

愛媛縣

議員總數七人

區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第
大内郡 三木郡 寒川郡	阿波郡 足野郡 阿波郡	多度郡 那珂郡	伊予郡 久米郡 下伊予郡	喜多郡 上野郡 浮穴郡	桑村郡 周布郡
一人	一人	一人	二人	一人	一人

山口縣

議員總數七人

區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第	區八第	區九第
美濃郡 吉敷郡 厚狹郡 佐波郡 阿武郡 大津郡 赤間郡 豐浦郡 熊毛郡 大島郡 玖珂郡	和歌山郡 名草郡 有田郡	品石郡 神石郡 甲奴郡 奴奴郡 三上郡 惠蘇郡	和歌山郡 名草郡 有田郡	和歌山郡 名草郡 有田郡	和歌山郡 名草郡 有田郡	和歌山郡 名草郡 有田郡	和歌山郡 名草郡 有田郡	和歌山郡 名草郡 有田郡
一人	二人	一人	一人	一人	二人	一人	二人	一人

和歌山縣

議員總數五人

區四第	區五第	區六第	高知縣	區一第	區二第	區三第	福岡縣	區一第
宇新	東宇	南宇	區一第	區一第	區二第	區三第	區一第	區一第
摩居	宇和	宇和	長土	早志	吾高	安香	早志	早志
郡	郡	郡	岡佐	良摩	川岡	藝美	良摩	良摩
一人	二人	一人	一人	一人	二人	一人	一人	一人
			議員總數四人				議員總數九人	

區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第
夜下	穗嘉	竹生	下上	區六第	區七第
須座	波麻	野葉	妻妻	三山	田企
郡	郡	郡	郡	池門	川救
二人	一人	一人	一人	一人	一人

區八第	大分縣	區一第
上築	區一第	區一第
毛城	大分	大分
郡	郡	郡
一人	議員總數六人	一人

佐賀縣	議員總數四人
-----	--------

區六第	區五第	區四第	區三第	區二第	區一第
宇下	東國	日玖	區三第	區二第	區一第
佐毛	東國	田珠	直大	南海	大分
郡	郡	郡	入野	海部	郡
一人	一人	一人	一人	一人	一人

區一第	區二第	區三第	熊本縣	議員總數八人
三養	區二第	區三第	區一第	
根父	西松	藤杵	宇託	
郡	浦浦	島	土麻	
二人	一人	一人	郡	

區四第	區三第	區二第	區一第
下上	阿合	區二第	區一第
益城	蘇志	玉名	宇託
郡	郡	郡	郡
一人	二人	一人	二人

第七區	第六區	第五區	第四區	第三區	第二區
大島郡	南諸縣郡 南大隅郡 肝屬郡 東嶺郡	菱刈郡 姦良郡 桑原郡 西贈郡 北伊佐郡	薩摩郡 南伊佐郡 出城郡 高城郡	日置郡 阿多郡	給黎郡 拊宿郡 顓娃郡 川邊郡
一人	一人	一人	一人	一人	一人

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名
御璽

明治二十二年二月十一日

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出内ニ關シテ

租稅及其一切ノ收納ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ、
 第二條 租稅及其一切ノ收納ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ、

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ歲出トシ歲入歲出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタル經費ノ歲出トシ歲入歲出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第二章 豫算

第五條 歲入歲出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第六條 歲入歲出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シテ豫算ノ外ニ臨時豫算

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ
第一 各省ノ豫定經費表及書シテ各都府中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度、或ハ會計年度ニシテ、

豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

官報號外

明治三十二年二月十一日

遞信大臣	文部大臣	陸軍大臣	大藏大臣兼內務大臣	司法大臣	農商務大臣	海軍大臣	外務大臣	樞密院議長	內閣總理大臣
子爵榎本武揚	子爵森有禮	伯爵大山巖	伯爵松方正義	伯爵山田顯義	伯爵井上馨	伯爵西鄉從道	伯爵大隈重信	伯爵伊藤博文	伯爵黑田清隆

第二豫備金

第一條 豫備金ハ避クヘカヲサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス
第二條 豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス
第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス
第九條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十條 租稅及其ノ他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ
法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徵收セ又ハ其ノ他ノ歳入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章 支出

第十一條 毎會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ
第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス
國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス
第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他
ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得
第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス
第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス
左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ
現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得
第一 國債ノ元利拂
第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費
第三 在外各廳ノ經費
第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費
第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費
第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモノ
第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費
第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル

第五章 決算

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用井左ノ事項ノ計算ヲ

明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

收入済歳入額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令済歳出額

翌年度繰越額

第十七條

前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五

ノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ

ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年內ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免

ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歳計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度內ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカヲサル事故ノ爲ニ事業

ヲ遲延シ年度內ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功ス、キ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂

殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年

度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ、
經費ノ定額ニ戻入ル、コトヲ得、

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借
第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得、

第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ賣入ル、トキ
第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスル場合ニ於テハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ
第三 非常急遽ノ際ノ工事又ハ物品ノ買入借入、又ハ物品ノ賣買貸借ナキトキ
第四 特殊ノ物質又ハ特別使用ノ目的アル物品ノ賣買貸借、場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカク、又ハ製造品及機械ヲ買入ル、トキ
第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ使用等ニ限アル場合
第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約、トキ
第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ
第九 軍艦ヲ買入ル、トキ
第十 軍馬ヲ買入ル、トキ

第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ
第十二 慈善ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ傭役シ及其ノ生徒又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ
第十三 囚徒ヲ傭役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ

第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈善教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ
第十五 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外ノ工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 出納官吏
第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損タル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカクサリシ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス